

≪令和4年度阿南市在宅医療・介護連携支援センター事業≫
第3回 阿南市在宅医療・介護連携推進会議

開催日：令和5年2月16日（木）

時 間：18:30～20:15

場 所：阿南市役所6階602会議室

1) 会議名：第3回 阿南市在宅医療・介護連携推進会議

目 的：阿南市在宅医療・介護連携事業の取り組みや課題に対して助言や対応策を議論し、具体的な解決策を見出す。また、顔の見える関係づくりの構築及び他職種の連携強化。

出席者：委員7名、事務局4名

〔阿南市在宅医療・介護連携推進会議委員〕

- ・原田 晃（医療法人 医正会 原田病院 院長）
- ・村田 昌弘（阿南市那賀郡歯科医師会 会長）
- ・内田 浩二（オリーブ薬局阿南店 代表取締役）
- ・岩佐 久美（公益社団法人徳島看護協会 所長）
- ・入江 陽子（健祥会ケアプランセンター阿南 管理者）
- ・高橋 陽子（徳島県南部総合県民局 保健福祉環境部阿南 主任主事）
- ・吉岡 泰香（阿南市保健福祉部 部長）

〔事務局〕

- ・石本 祐一（福祉事務所長兼地域共生推進課長）
- ・松崎 由美（地域共生推進課主査兼高齢福祉係長）
- ・是松 結（地域共生推進課主事）
- ・湯浅 祐司（阿南市在宅医療・介護連携支援センター センター長）
- ・福島 咲由理（阿南市在宅医療・介護連携支援センター 看護師）※欠席

2) 挨拶

挨拶：阿南市保健福祉部 吉岡 泰香部長

本日は、何かとご多用の中、令和4年度第3回在宅医療・介護連携推進会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。平素より、本市福祉行政にご指導・ご支援を賜っておりますことを厚く御礼申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症対応の長期化の中、医療・福祉従事者等の方々のご尽力に大変感謝しております。

さて、政府は、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけについて、今年5月8日から季節性インフルエンザなどと同じ「5類感染症」とする方針であり、一般の医療機関でも患者の受け入れができるようになり

ますが、高齢者など重症化リスクの高い人を守る感染対策について十分な配慮が必要となると考えております。

このような状況の中、本事業において、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるため、在宅医療・介護の一体的な提供を目的として「阿南市在宅医療・介護連携支援センター」を中心として地域の医療・介護の資源の把握や提供体制の構築推進等を実施してまいりたいと考えております。

つきましては、本市の包括的かつ継続的な在宅医療・介護の提供による地域包括ケアシステムの構築のため、委員の皆様方には、それぞれの立場から忌憚のない御意見をいただきますようお願い申し上げます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

3) 協議事項

(1) 事例検討

【事例内容】

○独居高齢者の透析患者が新型コロナウイルス感染症陽性となった場合について

- ・対象者は在宅生活者の要介護者で家族等の協力者がいない。
- ・今までA病院が送迎をしてくれていたがA病院は濃厚接触者までは送迎可能だが、陽性者の送迎はできない。
- ・陽性者となったが、発熱等の症状は無く、救急車等の緊急対応者ではない。
- ・透析も2日に1回は必要とのことで、最終的な対応としては、社会福祉協議会が送迎対応を行った。

《委員からの意見》

- ・まずは、①協力者等の再調査 ②病院との再交渉 ③社会資源の活用（福祉タクシー等）を行い、保健所等との連携を行う。
- ・社会資源の活用だが、阿南市内の福祉タクシーでの対応が困難なため、小松島市、徳島市に高額ではあるが対応できる福祉タクシーもある。
- ・2次感染を防ぐためにもしっかりとした感染対策の啓発が必要。
- ・このケースは、医療機関への入院が一番望ましいと考えられるので、入院対応へ市・保健所・医療機関が連携できる対応策の構築が必要。

《結論》

- ・阿南保健所としても徳島県の入院調整係へこのような事例についての情報を提供して、今後の対応策へ繋げるように取り組む。
- ・このようなケースは今後も想定されるが、ケースに応じて迅速に各関係機関等と連携をして対応を行う。
- ・医療機関もコロナ対応を想定して建設されている病院は少なく、ハード面での対応も困難をしているのが現状である。透析医院も多くの透析患者を抱えており、総合的に考えて対応を行っているので医療と介護がお互いに理解することも重要である。

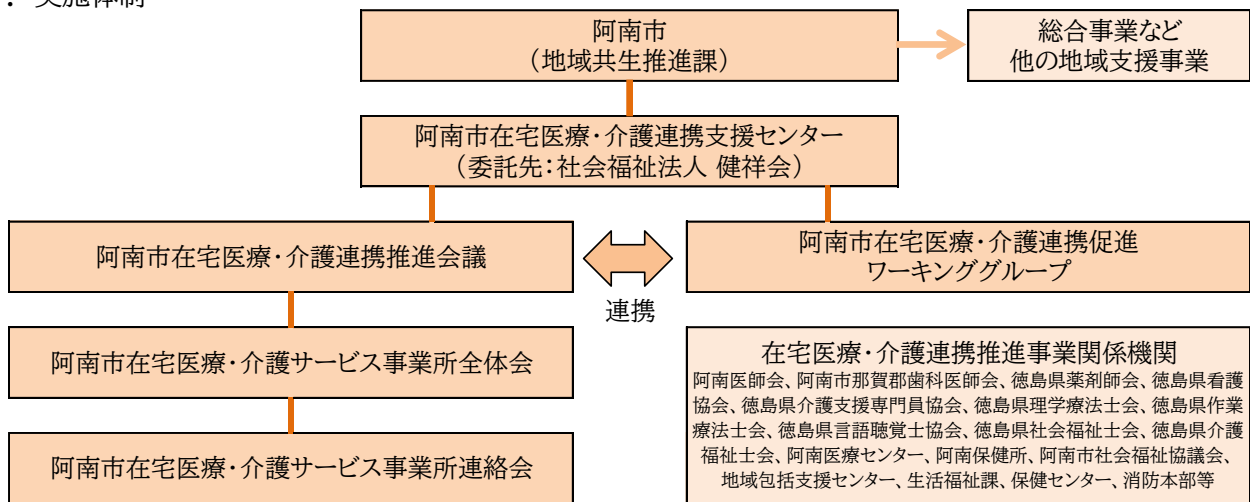
4) 阿南市在宅医療・介護連携支援センターの今年度の事業報告及び評価について

令和4年度阿南市在宅医療・介護連携推進事業について

1. 目的

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、切れ目のない在宅医療と介護の提供体制を構築するため、住民や地域の医療・介護関係者と地域のめざすべき姿を共有しつつ、医療機関と介護事業所等の関係者の連携を推進することを目的とする。

2. 実施体制



3. 実施内容

地域包括ケアシステムの実現に向けて、切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築のため、地域のめざすべき姿を設定し、医療・介護関係者と共有した上で、地域の実状に応じ、取組内容の充実を図りつつ、PDCA サイクルに沿った取組を進める。

1) 現状分析・課題の抽出・施策立案（計画）

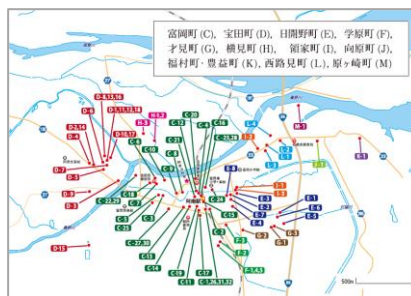
切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築に向け、現状の分析、課題の抽出、施策の立案を行う。

(ア) 地域の医療・介護の資源の把握

医療機関・介護サービス事業所マップを更新（現在調査中）

阿南市通所・訪問リハビリ事業所情報の更新（令和4年10月1日現在）

阿南市医療機関情報の更新（令和4年9月1日現在）



(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

(委員：阿南市医師会、阿南市那賀郡歯科医師会、薬剤師会、徳島県看護協会、介護支援専門員、徳島県阿南保健所)
第1回阿南市在宅医療・介護連携推進会議(令和4年7月28日)
第2回阿南市在宅医療・介護連携推進会議(令和5年2月16日)



阿南市在宅医療・介護連携ワーキンググループ

(委員：地域医療・在宅医師、阿南医療センター、病院看護師、歯科衛生士、居宅介護支援事業所、小規模多機能介護施設)



第1回阿南市在宅医療・介護連携ワーキンググループ(令和4年5月24日)
第2回阿南市在宅医療・介護連携ワーキンググループ(コロナ感染拡大のため中止)
第3回阿南市在宅医療・介護連携ワーキンググループ(令和4年11月29日)
第4回阿南市在宅医療・介護連携ワーキンググループ(令和5年2月28日予定)

利用者とその家族、介護支援専門員及び「通いの場」を対象としたアンケート調査(令和4年9～10月実施)

(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築の推進



阿南市在宅医療・介護サービス事業所連絡会
居宅介護支援事業所連絡会(令和4年5月26日)
内容：避難行動要支援者個別計画、BCPについて
阿南市在宅医療・介護サービス事業所全体会
(令和4年11月21日)
内容：新型コロナウイルス感染症の対応状況・課題

2) 対応策の実施

(ア) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

地域の在宅医療・介護の連携を支援する相談窓口の設置・運営
阿南市在宅医療・介護連携支援センター
相談員2名(介護支援専門員、看護師)



(イ) 地域住民への普及啓発

- ① 阿南市在宅医療・介護連携支援センターのリーフレット作成及び普及啓発
- ② 阿南市在宅医療・介護連携推進事業ホームページによる普及啓発

③ 第6回市民公開講座（令和5年3月19日開催予定）

基調講演：

「自分らしく生き切るⅡ～いのちの終わりの向け合いかた～」

講師：阿南医療センター 緩和ケア内科部長 寺嶋 吉保 氏

阿南市版エンディングノートたまたまて箱の説明

説明：阿南西部高齢者お世話センター 社会福祉士 粟飯原 由紀氏

アドバンス・ケア・プランニングの説明

説明：阿南医療センター 緩和ケア内科部長 寺嶋 吉保 氏



(ウ) 医療・介護関係者の情報共有の支援、知識の習得等のための研修などの地域の実状に応じた医療・介護関係者の支援

① 在宅での看取り、急変時、入退院時にも活用できる情報共有ツールの整備

医療サービス連携シートの更新及び普及啓発

② 地域の医療・介護関係者の連携を図るための多職種連携研修・グループワーク等

第1回ケアカフェ（令和4年6月30日）

研修「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」

講師 阿南市医療センター 緩和ケア認定看護師 中島 忍氏

グループワーク「もしばなゲーム」



第2回ケアカフェ（新型コロナウイルス感染防止のため中止）

第3回ケアカフェ（令和4年12月27日）

研修「呼吸器疾患患者の在宅療養移行～暮らしと笑顔を守る支援～」

講師 阿南医療センター 慢性呼吸器疾患看護認定看護師

田神 由香氏

事例検討 慢性呼吸疾患患者への支援



第4回ケアカフェ（令和5年3月28日予定）

研修「皮膚・排せつケアについて」

講師 阿南医療センター 皮膚・排せつケア認定看護師

3) 対応策の評価の実施、改善の実施

【本計画期間における目標・指標】

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
阿南医療センターにおける医療ニーズの高い患者の在宅復帰率	94.7%	94.8%	94.9%
阿南市在宅医療・介護連携支援センターにおける相談対応件数	30件	35件	40件
多職種連携研修会の参加者数	210人	220人	230人
市民公開講座の参加者数	320人	320人	320人
利用者及び家族、介護支援専門員を対象としたアンケート調査の実施件数	30件	30件	30件
「通いの場」におけるアンケート調査の実施件数	50件	80件	100件

【実績】

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度 (1月末)
阿南医療センターにおける医療ニーズの高い患者の在宅復帰率	91.4%	89.8%	85.1%
阿南市在宅医療・介護連携支援センターにおける相談対応件数	28件	29件	66件
多職種連携研修会の参加者数	76人	94人	63人
市民公開講座の参加者数	58人	動画配信 視聴数 276回	50人予定
利用者及び家族、介護支援専門員を対象としたアンケート調査の実施件数	0件	57件	75件
「通いの場」におけるアンケート調査の実施件数	0件	29件	72件

《委員よりの意見》

- ・この計画は何を基に作成をしているのか。
⇒阿南市高齢者福祉計画 第8期阿南市介護保険事業計画に基づき計画をしている。
- ・阿南市在宅医療・介護連携推進委員が阿南市在宅医療・介護連携促進ワーキンググループ会議へ参加する件はどうなったか。
⇒阿南市及びワーキンググループ会議で検討を行い、内田委員の参加が決定。
- ・多職種の連携強化としてIT化を進めなければならない。マイナンバーカードの普及・活用を行いラインワークス等の活用も視野に入れるなどIT化へ向けて設備・仕組みを第9期に入れてI

Tに強い職員体制の構築も必要ではないか。

⇒当センターでの効率化として、今年度、携帯電話の活用を充実させるために機種変更を行い、LINEの活用、パソコンをリース契約にて変更してハード面の向上を図っている。

また、マイナンバーカードの普及啓発については市と連携をし、ITについては知識向上に努め、事務効率化に向けたシステム構築も目指していきます。

・来年度も今年度を継続しての同様の計画で良いと思う。来年度の考えはどうか。

⇒来年度の計画については、今年度の反省・ご意見を踏まえACP・認知症への取り組みを入れ今年度の計画を継続していこうと考えております。

⇒良い構築ができつつあるので今年度を継続すべきであり、今後も継続することで医療と介護の連携強化に努めてほしい。

・歯科医の新型コロナウイルス感染症の現状として、コロナウイルス蔓延時期は、通院患者は少なく、治まれば多くの患者が受診するのが現状である。

⇒陽性者の対応も含め、阿南市の訪問歯科診療医院は充実しているので、口腔衛生に対してコロナウイルス蔓延時でも医療と介護が連携して日常生活に支障がでない取り組みを今後も情報共有をして行っていきます。

《事務局よりの意見》

・来年度の委員体制については今年度同様で良いか。また、開催日・時間は良いか？

⇒メンバーも開催日も変更なく行うことで賛同を得る。

・医療と介護の連携でお薬手帳に担当ケアマネを明記するシールを作成等について、薬剤師会と連携して来年度の居宅介護支援事業所部会で検討していきます。

⇒薬剤師会も協力するので連携構築を目指す。

【会議風景】



報告者：センター長 湯浅 祐司